



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.6.20 No. 4614

基地統廃合攻撃阻止

「貨物千人体制」粉碎へ

【別表】

〈検修関係〉

箇所名	実施項目	増減	実施内容
千葉機関区	検修業務の見直し	+3	ELの仕業検査が発生 DLの配置両数の変更 DD51+1 DE10▲2
千葉機関区 新小岩派出	検修業務の見直し	▲3	仕業検査施工箇所変更 EL-千葉機関区へ DL-京葉臨界へ委託
		+1	DL対応 無動手配対応
	構内業務の見直し	▲3	外勤業務の見直し

〈運転士関係〉

	増減	変更点等
千葉機関区	▲1	・仕業の見直し ・交番担当による外勤業務
千葉機関区 新小岩派出	▲1	・仕業の見直し ・波動要員の見直し ・交番担当による機能確認業務 ・交番担当による外勤業務

※運転士の準備時間等の変更がある

〈駅関係〉

箇所名	職名	増減	主な実施概要
新小岩操駅	営業係等	▲3	車両所等の移転に伴う業務の見直し 現行 隔日×1 改正

貨物関東支社 新小岩地区の基盤整備にともなう「新小岩車両所の川崎移転」と千葉機関区新小岩派出をはじめとした現業機関の移転および作業体制の変更について提案してきた。

新小岩車両所の川崎貨物駅構内への移転は八月二五日、千葉機関区新小岩派出・新小岩操駅・新小岩保全区は九月十五日の移転が明らかにされた。また検修・運転士についてもそれぞれ要員と車両配置の見直しが行なわれることが明らかにされた。

(別紙参照)
これは三月ダイ改による基地統廃合攻撃の第二弾であり、E工仕業検査の千葉機関区への移転、DL検査の京葉臨海への全面委託など検修合理化と外勤業務の見直し・兼掌化など地上勤務に大幅な変更が生じるものである。また乗務員は千葉機・新小岩派出それぞれ▲1となっており、今後貨物協議会を中心に千葉機・新小岩両支部でこの移転合理化阻止へ闘いぬかなければならない。

支社 新小岩地区
基盤整備
について
提案
(6/10)

車両所移転は、8月25日
その他は、9月15日に実施

「貨物基本問題懇談会」が
意見を提出 (6月13日)

昨年秋以来運輸大臣の私的諮問機関として討議が続けられてきた「JR貨物の完全民営化にむけた基本問題懇談会」(以下「懇談会」と略)が意見をまとめ六月十三日公表された。

この「懇談会」は、運輸省内に「九年度問題特命チーム」が設置され、貨物・物流問題のなかで、分割・民営化の矛盾の集中するJR貨物について議論する場として設けられた。「懇談会」は学識経験者、民間企業とJR本州三社・貨物の社長クラスで構成され、その下で実務担当者によるW・G(ワーキング・グループ)が具体的な検討を行ってきた。

「意見」では、①JR貨物の現状と民営化にむけた課題、②鉄道貨物輸送の意義、③新フレイト21について検討した上に、最も問題となる④線路使用料、⑤ダイヤ調整、⑥インフラ整備について見解をまとめている。

線路使用料・ダイヤ調整は旅客会社との利害が真っ向から対立する問題であり、またインフラ整備は整備新幹線建設に伴う全国輸送ルートの確保の問題としてJR貨物だけでは解決できない事柄として今後の検討課題とされている。さらに⑦株主構成のあり方が検討されたが、物流業界などへの株式「放出」はその「効果」と「懸念」が併記され結論となるには至らなかった。

総じて現在のJR貨物の抱える構造的課題の確認と結論の先送りに見られるように、「民間の論理・資本の論理」だけでは解決策の講じられないこの問題の深刻さがあらためて浮き彫りになった。そしてこの中で「新フレイト21」六千人体制「だけがノルマ的に確認された形となった。今後貨物職場を先頭にJR体制打倒、六千人体制粉碎へ総決起していこう。

